

〔評者〕
徳田安春
臨床研修病院群プロジェクト
群星沖縄副センター長



外来診療ドリル

診断&マネジメント力を鍛える 200 問

松村真司，矢吹 拓 編

●B5・頁212 2016年4月

定価：本体4,200円＋税

[ISBN978-4-260-02505-8]医学書院刊

医師の診療能力はさまざまなケースを経験して上達する。それはマニュアルやガイドラインのみを参照するだけでは決して得られない臨床の実践知なのである。読者は、本書を精読することにより珠玉の外来100ケースを疑似経験することができる。患者背景、主訴、病歴、バイタルサイン、身体所見、初期検査などが継続的に示され、本書を読みながら外来診療室で患者と向き合っているような雰囲気に取り込まれていく。

各ケースには、臨床的な判断ポイントを問うものとして重要な診断と治療についての設問が1つずつ付いている。設問数は合計200となる。選択肢は単純な知識を問うものというより、問題解決能力を問う形式がほとんどである。知識を問う問題の解答はネットですぐに得られても、これらの設問の解答について自信を持って選択することは簡単ではない。

ページをめくってみると、解答・解説がエビデンスベースで展開されている。最新の文献に基づいていることが解説を読むとすぐに理解できる。また、重要な項目は表としてまとめられているので後で参照するのに便利である。

そして、キーポイントが箇条書きに整理されており、読者が学習ポイントをきちんと押さえて記憶することができるようにになっている。それに続くケースの「転帰」でどのように経過したかを見ることで、ケースの臨床経過の疑似体験はクライマックスを迎えるのだ。

文献リストに一文解説が付いているのもありがたい。どの文献を参照すればよいか、読者がすぐにわかるようになっているからだ。評者が以前に発表したリンパ節生検の適応についての臨床研究論文も取り上げてくれているのはうれしい。

編者が受験時代に愛用したドリル式学習問題集のアイデアをベースにした本書は、わが国でもユニークな医学書となっている。受験時代に編者の偏差値を飛躍させたという意味では、このドリル式問題集の効果のエンピリック(経験的な)エビデンスは十分にあると言ってよいだろう。

「目指せ！外来偏差値65!!」と謳われているように本書はやや難問ケースを集めているが、診断難問だけでなく、いろいろな難しい質問を投げかけてくる患者への返事の内容もケースとして取り扱われている。そこがまた、外来診療の醍醐味でもあるのだ。

お勧めしたい読者層としてはまず、外来診療のマニュアルを読みながら外来診療を数年経験し、さらにスキルアップしたいと思う医師。内科のサブスペシャル診療科を長年担当した後に、新規に総合系の外来を担当することになった医師。内科系以外の診療科から、守備範囲を広げて外来診療を行うための準備をしている医師。最新のエビデンスベースで復習してみたいと思う外来診療ベテランの実地医家など、広くお勧めできる自己学習書である。